

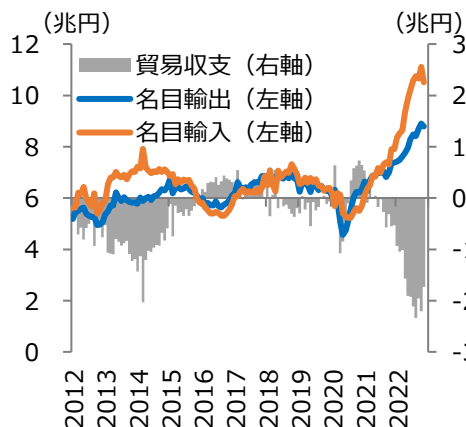
日本

貿易統計 (2022年11月)

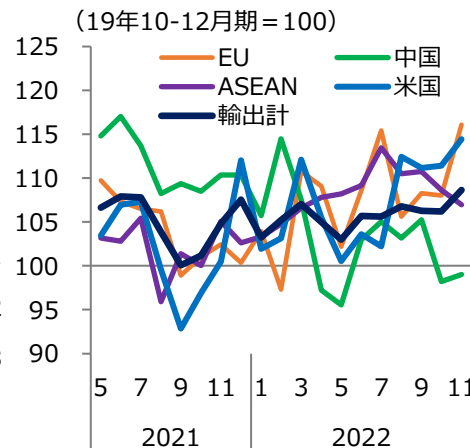
輸出は自動車中心に底堅さを維持、先行きは下押し圧力大

政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

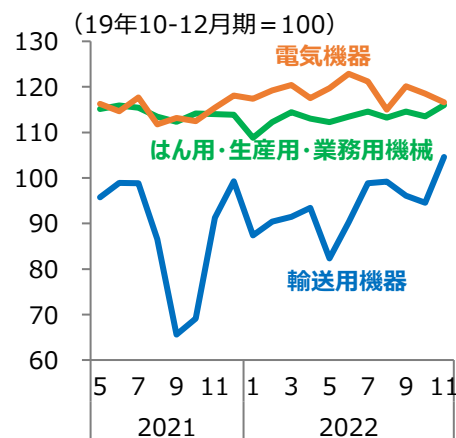
1 名目輸出入・貿易収支



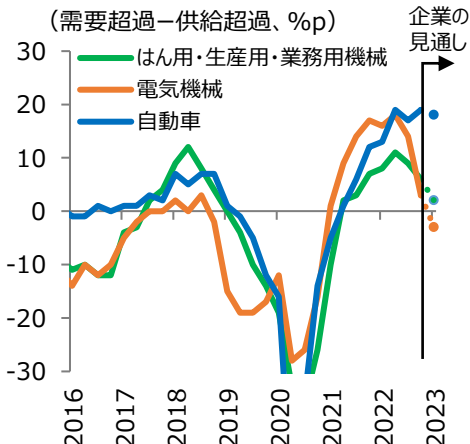
2 実質輸出 (地域別)



3 実質輸出 (財別)



4 海外の製商品需給判断DI



評価ポイント

今回の結果

- 22年11月の貿易収支 (季調値) は▲1兆7,323億円と18カ月連続の赤字となった (図表1)。円安一服・原油価格下落を受け、名目輸出 (前月比▲1.3%)、名目輸入 (同▲5.3%) とともに減少するなか、名目輸入の方が大きく減少し、貿易赤字は縮小した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出 (当社試算、季調値) は、10-11月平均で7-9月期対比+1.1%と底堅く推移している (図表2)。地域別にみると、ゼロコロナ政策継続により中国向けが低水準にとどまる一方、米国向け・EU向けは、景気減速感が強まるなかでも増勢を維持している。
- 実質輸出を財別にみると、供給制約緩和に伴う輸送用機器 (自動車等) 輸出の回復が全体を下支えしているほか、資本財 (はん用・生産用・業務用機械) 輸出も底堅い (図表3)。一方、半導体関連の在庫調整を背景に、電気機器輸出は中国・ASEAN向けを中心に減少傾向にある。

基調判断と今後の流れ

- 貿易収支は引き続き大幅赤字が続いているが、ピークアウトの兆しもみられる。12月に為替レートは対ドルで130円台半ば程度、原油価格 (WTI原油先物) は概ね70ドル/バレル台に下落し、名目輸入額を押し上げていた円安・資源高は一服しつつある。もっとも、海外経済の減速感が強まるなか、輸出の増加は見込み難く、貿易赤字の縮小は緩やかにとどまるだろう。
- 実質ベースの輸出は、当社の想定以上に底堅いものの、先行きは減少する見込みだ。業種別の海外需給判断DIをみると、設備投資に関連するはん用・生産用・業務用機械の需要に減速感がみられる (図表4)。米国、欧州の金融引き締めが影響している可能性がある。電気機械も供給超過が見込まれており、輸出は一段と減少するとみる。一方、自動車の海外需給判断DIは調査開始 (1998年) 以来の最高水準を維持しており、コロナ禍で先送りされたメンテナンス需要が強い。自動車需要の底堅さは、輸出の減少を一部緩和するだろう。